

平成 26 年度地域医療体験研修（冬期）



福島県相双保健福祉事務所

● 研修概要

3月3日（火）から4日（水）の2日間、「地域医療体験研修（冬期）」を南相馬市、相馬市において実施しました。

地域医療に関心を持つ医学生8名の参加を得て、東日本大震災により大きな被害を受けた相馬市、南相馬市の医療や復興について理解を深めるため、医療現場、精神保健活動の関係機関等の視察、医師との懇談、地域住民との交流及び被災地の視察等を行いました。



● 研修日程

月/日	時間	内容
3 / 3 (火)	9:30～ 10:15	オリエンテーション（福島県立医科大学）
	12:00～ 12:40	南相馬市博物館の視察
	13:10～ 14:10	絆診療所の視察
	14:30～ 17:30	南相馬市立総合病院の視察 臨床研修医との懇談会
3 / 4 (水)	8:50～ 9:10	津波被災地の視察（相馬市沿岸部）
	9:30～ 10:30	こころのケアセンターなごみの視察
	10:45～ 11:45	成田食品株式会社の視察
	13:00～ 15:30	課題研究・発表（道の駅そうま体験実習館）
	17:30	解散（福島市）



3月3日宿所
かんのや旅館（相馬市）



課題研究発表場所
道の駅そうま体験実習館



貸切りバスで移動

● 視察先マップ



- ・南相馬市博物館（南相馬市原町区牛来字出口 194）
- ・絆診療所（南相馬市鹿島区寺内字三里 1-24）
- ・南相馬市立総合病院（南相馬市原町区高見町二丁目 54-6）
- ・相馬広域こころのケアセンターなごみ（相馬市沖ノ内 1-2-8）
- ・成田食品株式会社（相馬市成田字大作 295 番地）
- ・相馬市沿岸部津波被災地（相馬市松川大洲地区）



● オリエンテーション (福島県立医科大学)

医療体験研修の開始に当たり、福島県立医科大学において研修の趣旨及び研究課題等についてオリエンテーションを行いました(説明、同大学大谷教授)。



大谷晃司教授



南相馬市博物館の視察 (南相馬市)

南相馬市博物館では、展示物やビデオの観覧を通して地域への理解を深めました。南相馬市の自然や歴史の他、伝統行事である野馬追の迫力あるジオラマ、映像も観覧しました。



● 絆診療所の視察

絆診療所では、遠藤院長から診療所開院までの経緯と、地域医療に対する考え方についてお話を頂きました。

また、応急仮設住宅集会所では地域住民から震災時の体験、避難生活の現状等のお話を伺いました。



遠藤清次院長



仮設住宅住民の方々から手作りのプレゼントを頂きました。



- 南相馬市立総合病院の視察
- 臨床研修医との懇談

南相馬市立総合病院では、金澤院長より震災時の病院の対応等の講話をして頂きました。
また、3名の研修医と懇談し、地域医療に従事する思い、信念等をお聞きました。
坪倉正治先生からは、放射線に関する知識や、被爆検査についての説明をお聞きました。



金澤幸夫院長



3名の研修医



坪倉正治先生より放射線について説明を受ける学生

● 津波被災地の視察 (相馬市沿岸部)

相馬港湾建設事務所職員から、松川浦沿岸部の復興状況について説明をお聞きました。
建設途中の堤防や道路を見て、復興に向かって歩んでいる津波被災地の現状を知りました。



● こころのケアセンターなごみの視察

こころのケアセンターなごみでは、米倉センター長から、精神科医療の現状と課題について説明を受けました。
被災地に住む住民の「こころの問題」への対応状況について話をお聞きました。



米倉一磨センター長



● 成田食品株式会社の視察

成田食品株式会社では、もやしの生産・出荷について工場見学を通して学びました。
また、食の安全への取組みである、放射性物質検査の過程について説明を受けました。



● 課題研究・発表（道の駅そうま実習体験館）

道の駅そうまにある体験実習館内において、学生達による課題研究の発表を行いました。
発表の後、学生達による討論や大谷教授の講評を経ることで、一人一人が地域医療に対する考え方を深めることができました。



● 研修を受けての感想

- ・ 南相馬市のみなさんに直接お会いしてお話を承り良かったです。知り合いの方々に再びお会いできたことも良かったです。長引く震災のため、皆さんのことを思いました。ただ、広島・長崎の皆さんも自らの足で立ち、生きてくれました。

私たちも他と協力し合いつつ、自立していくことが必要であると、再び感じたところです。

海の幸ごちそうさまでした。美味しかったです。このたびも充実した地域医療体験研修ありがとうございました。相双保健福祉事務所の方々及び福島県立医科大学の先生方、みなさまに感謝申し上げます。

- ・ 博物館では地域の歴史や文化について学ぶことができた。絆診療所では、原発避難地区の人々が自分の家に戻れずにどのような生活をしていて、どのような思いでいるのかを直接聞くことができた。子や孫もどこか他の場所に行ってしまう、高齢者だけで仮設に住まなければいけないということだった。

自分の家に帰れたら、復興に向けて歩み始められるのだが、それすらもできない。早く、自分の家に帰れるようにし、何年間もそのままにされていた家等を元に戻せるように支援の手が必要だと思った。

南相馬市立総合病院では、震災時や震災後の苦勞を知ることができた。震災後は原発事故もあって、看護師がやめていき、看護師が足りなくなり、使えるベッドが半分、という状態になっている。入ってくる看護師もいるのだが、やめていく看護師が多いので、減ってしまう。実際原発事故は収束して、その地域の放射能問題はほとんどないのだが、風評被害でやめていく。皆に正しい知識を知ってもらって、その地域の魅力を知ってもらって、より多くの人に入ってきてもらうことが必要だと思う。被災地の跡地の見学では、津波の破壊力の大きさを知った。新しい堤防が造られていて、早くできたらいいなあと思った。心のケアセンターなごみでは、災害後の心のケアの大切さを知った。震災で家族を亡くした人や、自信が震災の被害を受けた人等、多くの人が心のケアを必要としているんだなと感じた。

成田食品株式会社では、放射能の風評被害のために、非常に気を配ってもやしを製造し、非常に入念にチェックをしていた。すごく努力されていたので、正しい知識が早く皆に広まって、風評被害が早くなくなって欲しいと思った。

- ・ 今回相双地区の研修に参加させていただき、1泊2日の短い日程であったが、とても充実した2日間であったと感じた。

特に印象的だったのは、南相馬市立総合病院での坪倉先生のお話であった。坪倉先生は内部被曝に関する調査、研究を行っている方である。先生の話によると、南相馬での年間被曝量は日本の他の地域と比べても大差ない、あるいは低いということが分かっているそうだ。私自身福島は年に数回訪れることがあり、ある程度福島の放射線量については知っていると思っていたが、この話には驚かされた。しかし、被曝量が低いからといって、すぐに人が戻ってくるわけではない。地域を離れた人は地域とのつながり、家族とのつながりがなくなってしまう方もいたでしょうし、慣れ親しんだ土地を離れ、新しい地域で暮らす覚悟を決めなければならなかったと思います。その覚悟をデータで覆せるものではない、そこが難しいところだ、と坪倉先生をおっしゃっていた。これは絆診療所で伺った話だが、医療は人と人、しっかりと人と向き合わなければ良い医療を提供できないのだと思った。また、こころのケアセンターなごみでは、従来の患者が病院に来る受け身な医療ではなく、積極的に病気を発見していくという姿勢が私にとって新しい視点であった。し

かし、自分が病気であると認識していない人に対して治療をしていくという難しさもあるという話を聞いて、やはり人と向き合っていくことが大切なのだと思います。

今回の研修では、他にも南相馬市立総合病院の研修医の方との話や、地元企業である成田食品さんなど、地域で活躍している多くの方から話しを聞くことができた。地域の現状を知ることとはもちろんであるが、自らの将来について考えるいい機会でもあったと思う。

- まず、なんといっても福島の実状を知ることができて本当によかった。震災の傷跡が強く残る場所、今なお自分の故郷に帰ることができず仮設住宅に住む方々、風評被害に耐えながら経営を続けていく方々を見て、直に自分で触れることができて良かった。知識として知っていることと自分の目で見て感じることで、かなりの違いがあると思う。そこで住んで生きている人たちに触れ、一人一人の悩みがあり、困っている人もたくさんいることが自分なりの方法でうけとめることができて良かった。今回、友達に誘われて参加したのだが、まだ震災に苦しんでいる方々、復興がまだまだ終わっていない場所、そのようなことを知ることができていい経験になったと思う。普段自分では決して知ることができなかつたであろうことを体験できて本当に良かった。貴重で大切な体験をさせてもらえたと思う。

今回、一番知れて良かったことは、福島の大体の場所は、場所にもよるが、大体安全な放射線濃度であるということであった。これは、僕にとってとても衝撃的であった。福島は全体的に放射線の濃度が高く、危険だというイメージを勝手に持っていた。そんな僕にとって、この事実にはとても驚いた。また、僕のように変な先入観を持ってしまっている人、それに医学生もたくさんいるのではないかなと思う。自分も今回このような貴重な体験をさせてもらったからには、みんなの違った知識を正し、正しい知識を広めていけたらいいなと思う。

今回、色々な体験をさせてもらったが、なんといつてもとにかく楽しかった。色々な先生の話を受けて良かったし、楽しい職員の方々と一緒にいてお話しができてとても楽しかった。いろいろなことを知れ、見ることができ、話もすることができ本当に楽しかった。ありがとうございました。

- 私は以前、夏期の研修にも参加したことがあり、今回が二度目の研修であった。一度目の研修では「地域医療の研修」という名目よりも、「被災地の様子を知る研修」ということを自分の目的としていたが、今回は前者の方に重点を置き、様々な施設を見学したり、たくさん興味深いお話を聞いた。

今回の研修を通して強く感じたことがある。それは「聴く力」の重要性である。視察に伺った絆診療所の遠藤先生は「診療の内容がただ話を聞くだけの日もある」とおっしゃっていた。この話を聞き、地方には都会の病院のように最先端の機器などはないが、その代わりにこの「聴く力」を武器にして医療を行っていくことが大切なのではないかと考えた。また、遠藤先生は「どんな機械や技術を間に介在させようとも、医療の根幹は人と人との一対一のやりとりである」ともおっしゃっていた。この言葉を受け、私は「聞く力」ではなく、「聴く力」を磨き、患者さんや地域の方々と真摯に向き合う力を養っていきたいと感じた。

冒頭に「地域医療の研修」として重点を置いたと述べたが、やはり震災復興の様子にどうしても目がいった。問題は山のようにあり、思うように復興は進んでいないが、その中でも前を向いている人がいることを知った。戻ることはできないが、前に進むようとしている人がいる。そのような人を支える存在になればと改めて思った。最後に今回の研修でお世話になった皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

- 自分は友人に誘われてこの研修に参加したので福島地域医療や、今福島がどうなっているのか等よく知らなかった。だけど、この研修で復興の現場を見たり、病院の先生の話の聞いたりして知ることができた。そして、それを知ること自分が持っていたイメージと現実の乖離に気づくことができた。例えば、仮設住宅での孤独という問題は知っていたが、仮設から復興住宅に移って終わりではなく、新しいコミュニティを作らないといけないという新たな問題があるということは頭になくともハッとさせられた。病院の先生による放射線のお話では、科学的に分かっている結論をただ言うのではなく、その人の感情を考えていかなければならないということを聞いたが、これは自分の中で考えていた何が正しい正義であるのかというものの一つの答えであると学ぶことができた。このように色々を知ること考えなければならぬ問題が分かり、考えていくことができると思った。
- 今回、相双地区の地域研修に参加しました。相双地区は気候豊かなのびのびとした地域だと思いました。震災から4年が経ち、徐々に復興へと向かっているのだなと初めのうちは感じていました。しかし、実際に仮設住宅に住む方々のお話、絆診療所の遠藤先生のお話を伺って、家族全員が一つ屋根の下で暮らせないさびしさや、仮設での住みにくさなど、復興が進んでいるものもあれば、一方で震災前にはあった人々のつながりが失われ、それはまだまだ途切れたままなのだということを知りました。相双の沿岸部や南相馬市立総合病院なども見学し、こういった見学をして、私たちは研修中にグループワークや最終日に発表を行いました。他大学の人の地域医療への思いなどを知ったり、先生方とともにいろいろな議論ができたことがとても楽しかったです。2日間という短い間でしたが、たくさんの人とお話できて良かったです。最後に、今回の企画を立ち上げてくださった寅磐さんを始め、医大の先生方、どうもありがとうございました。
- 今回の研修で、自分は被災地での医療や住民の暮らしについて、今どんな状況にあるのか知りたいという思いで参加させて頂きました。実際に被災された方とお話したり、被災地を見たりしましたが、想像していたものや、テレビで見たものよりもとてもひどい状況でした。仮設の住居はとても狭く、居心地が悪い、また隣の声が丸聞こえでプライベートがないなどとても大変な環境で生活されていることが分かり、福島において“復興”という言葉の重さが分かった。

また、視察先での先生方が口をそろえて、患者さんとの信頼関係を築き、説明することの大切さを強調しており、将来自分の患者さんに対して、どのように接したら良いかなどが少し分かった。

研修を通して、今回の震災の影響の大きさを改めて痛感した。福島で住む以上、切っても切り離せない問題で、自分が医師として働くときにも、そうしたことを考えなければいけない。また被災された方や放射能について考えている患者さんとどう接すれば良いかということも少し分かった。また、他の地域の医学生と意見を交換することで自分の気付けないことに気付けるのはとても良かったと思う。

平成26年度 平成27年3月

地域医療体験研修（冬期）実施報告

編集・発行

福島県相双保健福祉事務所 総務企画部総務企画課

〒975-0031 南相馬市原町区錦町1丁目30番地

電 話 0244-26-1326

F A X 0244-26-1332

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21160a/>

E-mail:sousou.hokenfukushi@pref.fukushima.lg.jp
